

3 本市が目指す教育環境

(1) 南相馬市教育振興基本計画基本理念に基づく教育

南相馬市教育振興基本計画における基本理念「自ら学び、自ら考え、生きぬく力を育むまちづくり」、及び目指す子どもの姿「夢と希望を持ち、挫折や苦難に負けない、生きぬく力が備わった子どもたちの育成」を教育の目標に掲げ、自らの力で社会を創造する人材の育成を図ります。

(2) 南相馬市公立学校適正化計画に基づく教育環境

『互いに学び合い、高め合うなど切磋琢磨する教育環境』

子どもたちが義務教育における集団活動を通して、協調や対立、共感や反発など、多種多様な人間関係を体験し学ぶことにより、社会性・協調性・集団性を培い、成長を遂げていくものです。

そのためには、様々な見方・考え方や経験を持っている友達との出会いが大切であり、互いに学び合い、高め合うなど切磋琢磨する教育環境を目指します。

(南相馬市公立学校適正化計画(平成30年11月策定)一部抜粋)

◎計画関連図

南相馬市教育振興基本計画 後期計画



南相馬市公立学校適正化計画



鹿島小学校・八沢小学校再編計画

(3) 再編の目的

八沢小学校の児童数は、令和11年度には20人程度まで減少する見込みとなっており、児童数の減少に伴い、切磋琢磨する教育環境が失われるとともに、これまで行ってきた教育活動の継続が困難な状況となることが予想されます。

鹿島小学校については、現在、適正規模であるものの、今後、児童数が減少し、令和11年度には適正規模※4以下となる見込みとなっています。

このことから、将来にわたり安定的な教育環境を提供するため、鹿島小学校と八沢小学校の再編を進めます。

※4) 適正規模 「適正化計画」において望ましい適正規模として、小学校では1学級あたりの児童数を21~25人、1学年あたりの学級を2~3学級、中学校では1学級あたりの生徒数を26~30人、1学年あたりの学級を2~4学級としています。

(4) 統合校における特色と魅力ある教育

鹿島小学校と八沢小学校の統合の効果を最大限生かすとともに、鹿島区の特性を活かした特色と魅力ある教育活動に取り組めます。

適正化の効果を生かした教育活動

- 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し、切磋琢磨する環境の確保
- コミュニケーション能力や人間関係を構築する力の育成
- 教員や学習支援員などが連携したきめ細かな指導の実施
- 上真野小も交えた学校間交流活動の実施

I C T 教育の取組みの推進

- 鹿島区小中学校を I C T 教育モデル地区とし、ICT を活用した先進的な取組みを推進
- 個別最適な学びと協働的な学びの充実
- 主体的・対話的で深い学び実現に向けた授業改善

プログラミング教育の推進

- プログラミング学習用ロボットやアプリを活用したプログラミングを体験する機会の創出
- プログラミング的思考（論理的思考）の育成
- 情報活用能力の育成
- 情報モラル、情報セキュリティ学習の実施

外国語教育の推進

- 英語の読み書きの基礎を学ぶ学習法であるフォニックス学習の導入
- 日常的に英語に触れ、外国人とコミュニケーションが取れる環境の構築（A L T の単独配置）

学力向上教員の配置

- 算数・数学の学力向上を図るため、学力向上教員を継続配置
- チームティーチングによる指導体制の構築

高等教育機関との連携

- 市と連携協定を結んでいる新潟大学の教員による特別講義の実施

ふるさと教育の推進

- 鹿島区の史跡や伝統文化、地域人材などを生かした体験学習の実施
- 鹿島区の良さを学び、愛着や誇りを醸成
- 地域学校協働本部との連携

幼稚園・保育園との連携

- 幼稚園・保育園との交流活動の実施
- 園児に小学校への憧れの気持ちの醸成
- 小 1 ギャップの緩和を図る
- 小学生に小さい子を思いやる心の醸成